



赤石ひろ子 市議会LETTERS

発行・連絡先 日本共産党川崎市議会議員団
川崎市川崎区宮本町1 川崎市役所第2庁舎7階
TEL044-200-3360 FAX044-245-4140
登戸事務所TEL044-930-1885



facebook  Twitter

www.akaishi-hiroko.jp/

赤石ひろ子の公式ブログ
QRコード



2022年第2回川崎市議会定例会 予算審査特別委員会で質問しました。

登戸土地区画整理事業の終盤に区域内2か所で タワーマンション建設計画が浮上!

1988年(昭和63年)に始まった登戸土地区画整理事業。現在、仮換地指定は95%近くに達し、最終盤を迎えています。

市の新年度予算では6度目の事業計画変更に伴い、58億円増の73億8,000万円余が計上されました。

ここにきて、明らかになってきたのが、区域内2か所でのタワーマンション建設計画。

登戸の「にぎわい創出」とうたわれますが、タワーマンションが建つことで、日照や風害などの環境変化、弱小地権者の転出、

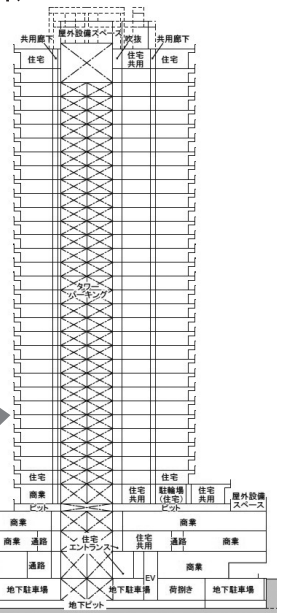
急激な人口増加による保育所や学校の不足など、さまざまな問題が生じることは、武蔵小杉の例などでも明らかです。

住民本位のまちづくりとなっているのか、注視していく必要がありそうです。

川崎都市計画事業 登戸土地区画整理事業 設計図

51街区

90・93・94街区



- 地上25階建て
- 計画地面積約3,450㎡/高さ約79.98m
- 1~2階/店舗、3階/駐輪場と電気室、4階~/住戸241戸
- 事業者: 三井不動産レジデンシャル、小田急不動産
- アトラスタワー(22階建て)の対面に立地。計画地東側には公共広場が設置され、その隣にはタワーパーキング(160台分)を配置。



- 地下1階、地上35階建て
- 計画地面積約5,950㎡/高さ約136m
- 地下1階/駐車場、1~3階/店舗、4階/駐輪場、5階~/住戸約400戸
- 事業者: 登戸駅前地区市街地再開発準備組合
- 計画地は登戸駅前広場の向かい側で、歩行者通路は登戸ペDESTリアンデッキからジョイントし、店舗スペースへ誘導する計画も。

登戸1号踏切は廃止に!

「開かずの踏切」として小田急電鉄も認識してきた登戸1号踏切は、登戸土地区画整理事業の進捗に伴い廃止が確定しました。向ヶ丘遊園駅北口側へは、車両は迂回、歩行者は踏切跡に跨線橋を設置し誘導するとしています。当初は小田急線の複々線化を前提としていましたが、それが見込めなくなったため道路整備も変更を余儀なくされています。

登戸まちづくり 緊急学習会を開催

登戸駅前のタワーマンション建設計画を受け、岩見良太郎先生(埼玉大学名誉教授)を講師に緊急学習会を多摩市民館で3月5日に開催。オンライン参加も含め、関心ある市民20名が受講しました。市民本位のまちづくりの在り方について活発に意見が交わされました。

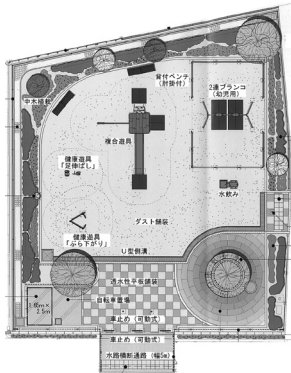


要求実現!

AREA TOPICS 中野島

待望の街区公園がもうじき着工

2020年12月議会で質問した、中野島3丁目の公園整備が進み、詳細設計がまとまりました。町会はじめ市民の意見を取り入れた植栽や遊具の配置。子どもたちに人気のブランコ、すべり台のほか、高齢者向けの健康遊具も設置される予定で、完成が楽しみです。公園敷地の鋭角部分への改善要求もあるようですが、柔軟な対応を望みたいと思います。



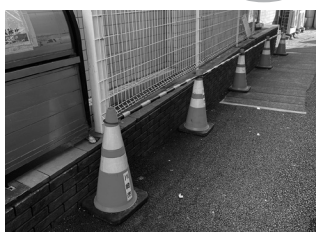
AREA TOPICS 東生田1丁目 ガタガタ道路が舗装できれいに!

小田急線向ヶ丘遊園駅南口からつづく五反田川沿いの周辺道路は専修大学への通学路にもなっていますが、劣化が激しく、昨夏に多摩区役所道路公園センターに改善を申し入れていました。マンホール周辺にひびが入ったり、アスファルトが凸凹して、高齢者やベビーカー利用者にとって危ない状況が見られていましたが、1月から2月にかけて工事が行われ、今はなだらかな路面になりました。



迷惑駐輪をコーンでブロック

車椅子での通行も多い路地の段差解消を市に依頼し、快適化がはかられたらいいけど駐輪が増えたって悩ましい場所。市がコーンとポールを設置して、駐輪も減りました。これがなくてもマナーやモラルが守られる街が理想なのですが。



AREA TOPICS 登戸

テレビ神奈川の4会派座談会『予算の審議を前に』で出演

毎年度、予算審議の前に組まれるTVK(テレビ神奈川)の特別番組に、日本共産党市議団を代表して出演。市の2022年度予算を「子ども・高齢者・中小企業に冷たい予算」と題し、大企業・大規模事業の優遇、市民の暮らし、福祉冷遇の予算案だと評価しました。とくに小児医療助成制度で川崎市が中学3年生までの無料化に踏み切れず、取り残された子育て施策の乏しさを指摘。また、脱炭素戦略でも臨海部7社へのCO2徹底削減と再生エネルギー利用の発電で電力の地産地消を提案しました。

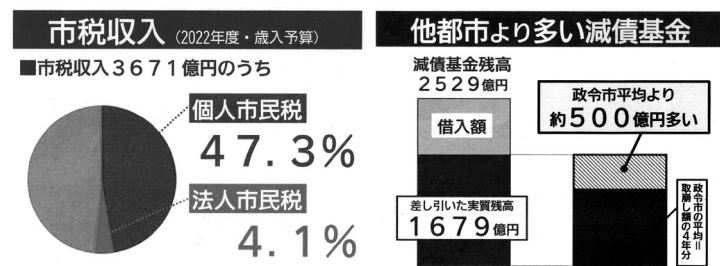


2月20日、テレビ神奈川のスタジオにて収録が行われました(放送は2月27日夜)

川崎市2022年度予算は「子ども・高齢者・中小企業に冷たい予算」

◆政令市トップの財政力を支えるのは市民◆

一般会計予算8,785億円は、8年連続過去最大。これをけん引する市税収入の47.3%を占めるのが個人市民税です。対して法人市民税はたった4.1%で個人市民税の12分の1にすぎません。減債基金からの借入れも、新年度は239億円計上していますが、借入金を差し引いた減債基金残高は他政令市平均と比較すると



500億円も多く、毎年積み増しされています。川崎市が財政的に政令市でもっとも豊かな都市であることは明らかです。

◆なのに、市民の暮らし・福祉は後回し◆

予算の使いみちとはいうと、大規模事業を促進。港湾費は一般会計、特別会計合わせて163億円。このなかには不要不急の事業約100億円が含まれ、さらに臨海部から撤退縮小する企業に最大27億円もの奨励金を出す事業も始まります。対して中小企業支援予算は、融資を除けばわずか11億円です。また、総合計画第3期素案では、高齢者や障がい者への市単独事業の見直しが示されていて、福祉削減の傾向が顕著。さらに、20億円あれば実現できる中学3年生までの医療費完全無料化

こどもの医療費助成 (県内33自治体)		
■通院助成の対象	~高校3年	~小学6年
	大井町 松田町	横浜市・相模原市 川崎市だけ!
~など30自治体		
■一部負担金	■所得制限	
なし 横須賀市など29自治体	なし 横須賀市など16自治体	
あり 川崎市など4自治体	あり 川崎市など17自治体	



を拡充する姿勢も示さず、こうした子育て施策の遅れが、子育て世帯の市外転出を招いています。

区画整理で様変わりする登戸について今回も議会で質問しました。この地に、二十数年しか住んでいない私でさえ、下駄屋さん、和菓子屋さんなど、なじみの店が姿を消していくことに哀愁を感じています。新しいにぎわいのもとに、新たな街の顔がつけられていくのですが、その土地の成り立ち、歴史、文化は大切にしたい、未来にも引き継ぎたいと思うこのごろです。

その思いを募らせたのが『かわさきのむかし話』。作者である故・萩坂昇氏の甥子さん登戸在住で、かわさき民話を愛する会で活動されていて、お話もつかがいました。民話には、影向寺、しばられ松など、知ってる!がたくさんあって、想像が膨らみ、不思議とその土地への愛着がわいてきます。その昔、多摩の森には3匹のキツネがいて、子どもたちに親しまれていたのだとか。文化継承のためにも、公立図書館への資料購入予算を増やしていくよう市にもはたらきかけたいと思います。(赤石ひろ子)

梨花百々

